

世界の国や地域と協力してめざす「2050年カーボンニュートラル」

地球温暖化による気候変動の影響は、世界共通の問題であり、その対策についても、世界各国が協力して、目標やルールを決めたりしながら取り組んでいます。気候変動問題の解決に向けて、2015年にフランスのパリで国際的なルール(パリ協定)が示され、世界共通の長期目標として、「世界的な平均気温上昇を産業革命前(1850~1900年)に比べて2℃より低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること」などが取り決められました。

この実現に向けて、現在、日本を含む世界の120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」を目標に掲げ、さまざまな取り組みを進めています。

カーボンニュートラルとは？

CO₂などの温室効果ガスの「排出される量」と「吸収される量」を同じにし、差し引きゼロにすること



現状

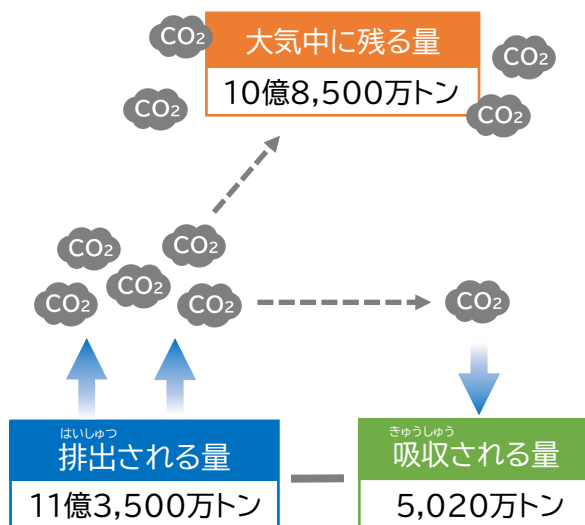
排出される量 > 吸収される量

日本で排出される温室効果ガスの量は、11億3,500万トン(2022年度)です。

そのうち、5,020万トンは森林等により吸収されますが、残りの10億8,500万トンは、大気中に残ってしまっています。

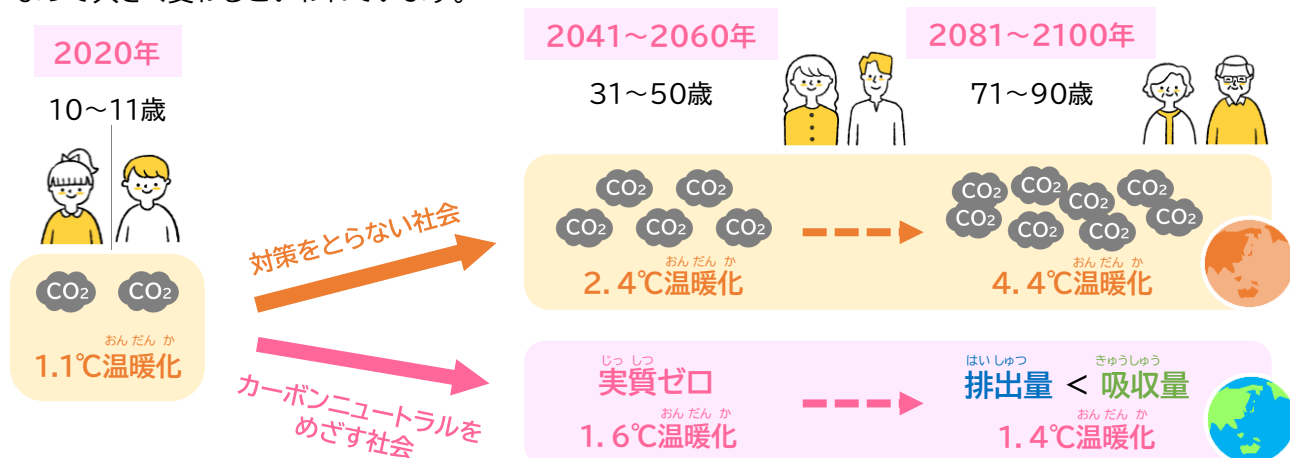
温室効果ガスは、わたしたちの経済活動や日常生活に伴い排出されており、排出をゼロにすることは困難です。

そのため、①排出される量をできる限り減らし、②どうしても減らせない分は吸収される量を増やして、「実質ゼロ」をめざすことが大切です。



なぜカーボンニュートラルをめざすの？

世界の平均気温は2020年時点で、産業革命前(1850～1900年)と比べ、すでに約1.1℃上昇しています。未来のCO₂排出量・未来の温暖化は、わたしたちの日々のくらしや、企業等の経済・社会活動などのあり方によって大きく変わるといわれています。



地球温暖化の進行と異常気象

近年、世界各地で記録的な猛暑や干ばつ、大雨や強雨などの異常気象が起きています。2022年、ヨーロッパは“過去500年で最悪”となる干ばつに見舞われました。一方、パキスタンでは、大雨により国土の3分の1が水没する大洪水が発生しました。こうした異常気象は、地球温暖化が進行するほど、頻度と強さが増加すると予測されています。

異常気象は、世界各地の農業にも大きな影響を与えています。ヨーロッパの干ばつでは、トウモロコシの収穫量が過去5年の平均と比べ16%減少するなど、さまざまな農作物の生産に影響が出ました。

日本は、たくさんの食料を輸入していますが、外国において干ばつや洪水などにより農作物が作れなくなると、輸入価格が高くなったり、輸入できなくなるなど、わたしたちのくらしにも影響が出てきます。



干ばつ（イメージ）



大雨（イメージ）

1トンの二酸化炭素の体積はどのくらい？

二酸化炭素の排出量は、重さの単位の「トン」や「kg(キログラム)」が使われます。

体積で考えると・・・

二酸化炭素1トンは、25mプール※1つ分、

二酸化炭素1kgは、500mLのペットボトル

約1,100本分と同じ量になります。

※プールの体積：25m×16m×1.3m＝520m³

※CO₂ 1トンの体積：20℃、1気圧のとき約550m³

（全国地球温暖化防止活動推進センター）

わたしたちが1日に排出している二酸化炭素はどのくらい？

家庭1世帯から1年間に排出される二酸化炭素は約3,800kgです。1日あたりで考えると、
3,800kg÷365日で、約10kgになります。

これは500mLのペットボトルの本数に当てはめると、

1kgあたりのペットボトルの本数 1日当たりの排出量

×

=

本分

に相当します。

計算してみよう！